



ふるさと剥奪

—原発事故は地域の人々から何を奪ったか—

檜葉・木戸駅の桜(2019)

立教大学・関礼子

被害の見えない化（「自主避難」への切り下げ）

1) 事故当初、線引きを拒んだ避難受け入れ自治体があった

⇒ 来る者は拒まない、等しく受け入れる

⇒ 全くの制度外避難者の被害も見えていた（例：佐賀）

⇒ 遠隔地では、全くの制度外避難者が自主避難者だった

2) 自治体の制度外避難者の支援が終わり、福島県の区域外避難者がもっぱら自主避難者と呼ばれるようになった

⇒ 裁判があるから自主避難者の被害が見えている状況

3) 避難指示の解除が進み、強制避難者が自主避難者化

⇒ 「帰れるのに帰らない」、「復興は進んだ」

時間 (t)



強制避難

自主避難

避難指示等区域等*
(福島県内外への避難)

災害救助法適用地域(福
島県からの県外避難)

福島県外からの
自主避難

避難指示区域

避難指示等解除区域

福島県から県外へ
自主避難

避難指示区域

避難指示解除区域

ここに注目して
「ふるさと」とは何か？
「ふるさと剥奪」とは何か？を考える

ふるさとがありますか？

—「故郷喪失」の社会心理—

石川啄木 24歳 1910(明治43)年『一握の砂』

ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな

室生犀星 29歳 1918(大正7)年『抒情小曲集』より「小景異情」その二

ふるさととは遠きにありて思ふもの

そして悲しくうたふもの

よしや

うらぶれて異土(いど)の乞食(かたゐ)となるとても

帰るところにあるまじや

寺山修司 28歳 1964(昭和39)年『田園に死す』より

ひとの故郷買ひ損ねたる男来て古着屋の前通りすぎたり

大麦を大いなる歩で測りつつ他人の故郷売る男あり

帰れる故郷



帰れない故郷

* 人間関係



故郷喪失

* 人も自然も

* 第2の故郷

* 新しい故郷

高橋勇悦(1974)

「避難」と「故郷喪失」を混同していませんか？

1970年代、故郷喪失から故郷創出（コミュニティ形成）が始まった

- 地域は変わっていくものでしょう
- 「ふるさと」がない人だっているでしょう
- 別のところに住宅再建できたらいいでしょう
- 避難指示が解除されたのだから、戻ればいいでしょう
- 復興は進んでいるでしょう
- むしろ生活が便利なところに移転して、帰りたくないのでしょう
- ダム建設の集落移転でも「ふるさと」がなくなるでしょう
- 原発事故がなくても過疎でいずれ地域は消滅したでしょう



避難当事者にとって重大な損害が伝わりにくい

「故郷/ふるさと」とは何ですか？ —「ふるさと」の3要素—

高野辰之「故郷」(尋常小学校6年唱歌)に示されるように、

「故郷/ふるさと」=

1. 兎追ひし彼の山
小鮒釣りし彼の川
夢は今も巡りて
忘れ難き故郷



自然の中で遊ぶ
自然とかがわる

2. 如何にいます父母
恙無しや友がき
雨に風につけても
思い出ずる故郷



親族や友人
支えになる人びと

3. 志を果たして
いつの日にか帰らん
山は青き故郷
水は清き故郷



変わらぬ自然
変わらぬ人々

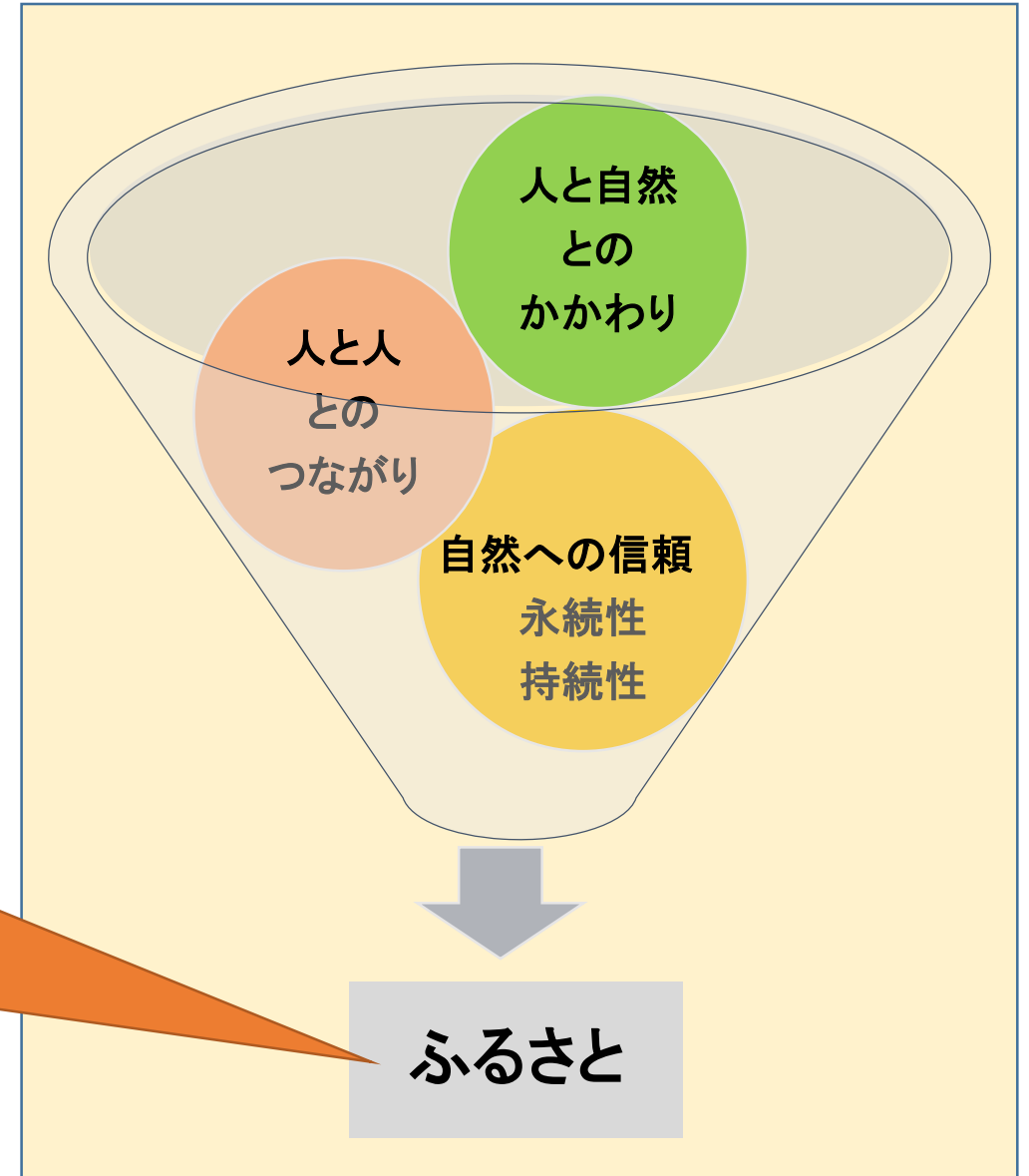
人と自然とのかかわり + 人と人とのつながり + 持続性・永続性

故郷／ふるさととの3要素

- 人と自然とのかかわり
生業、遊び、
マイナーサブシステムス...

- 人と人とのつながり

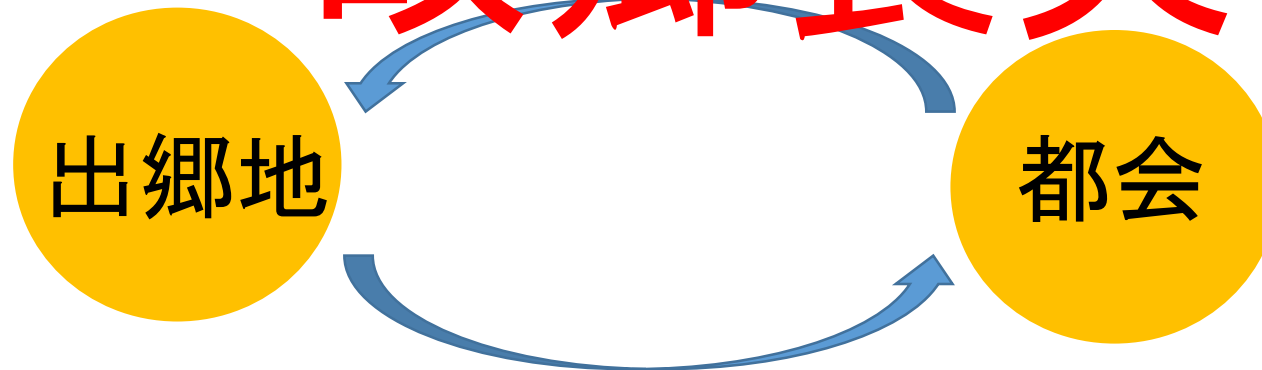
ここで生きるという「当たり前」
アイデンティティの根幹
人間存在の基盤



原発事故避難は都市化の「故郷喪失」ですか？

故郷に錦を飾る、盆・正月の帰省、
懐かしい故郷、「あのふるさとに帰
ろかな」(「北国の春」)

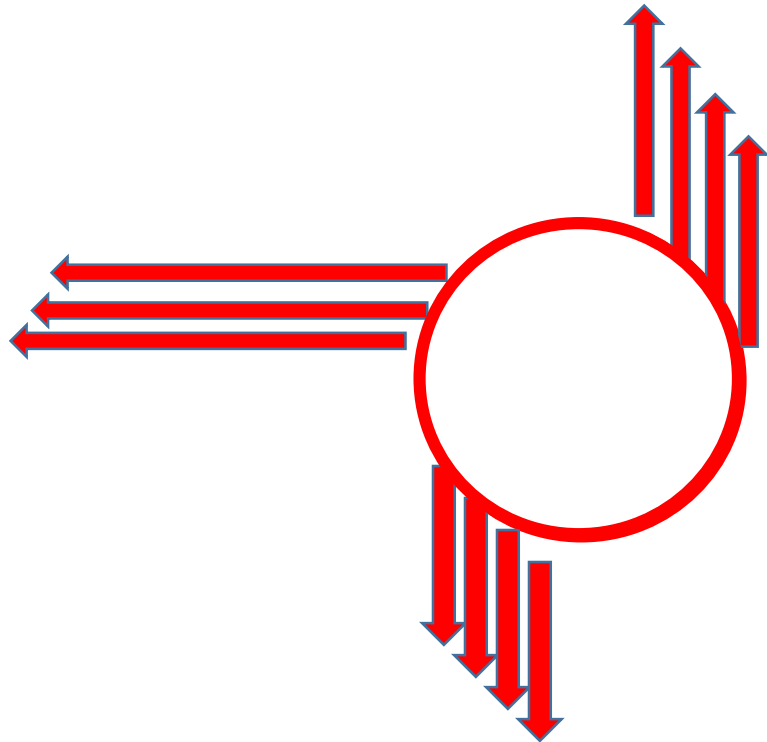
故郷喪失 ⇒ ×



地方から都市への人口移動

原発事故は「故郷/ふるさとと剥奪」である

- ・地元＝地域がなくなるということ
- ・放射能汚染＝全面的な環境汚染



誰かの「ふるさと」だった人々が避難を余儀なくされ、「ふるさとをなくした」「ふるさとを返せ」と訴えている状況

⇒原発事故に特徴的な被害のかたち

＝ふるさと剥奪

被害をみえにくくする警戒ワード

①喪失(変容)

(あいまいな喪失／ボス)

②コミュニティ

(コミュニティの創発、生成、変容・・・)

③復興

(復興事業、復興祈願、復興への第一歩)

「故郷喪失・変容」ではなく「ふるさと剥奪」 (喪失ではなく剥奪、変容ではなく剥奪の継続)

①曖昧性(「故郷(家郷)喪失」との混同・「あいまいな喪失」＝主観性)の排除

近代人の精神性～コミュニティ創出の議論と峻別

「ある」けれども「ない」、「ない」けれども「ある」、「曖昧な喪失」論と峻別

→実態として剥奪、実被害としての剥奪

②<加害－被害>関係の組み込み

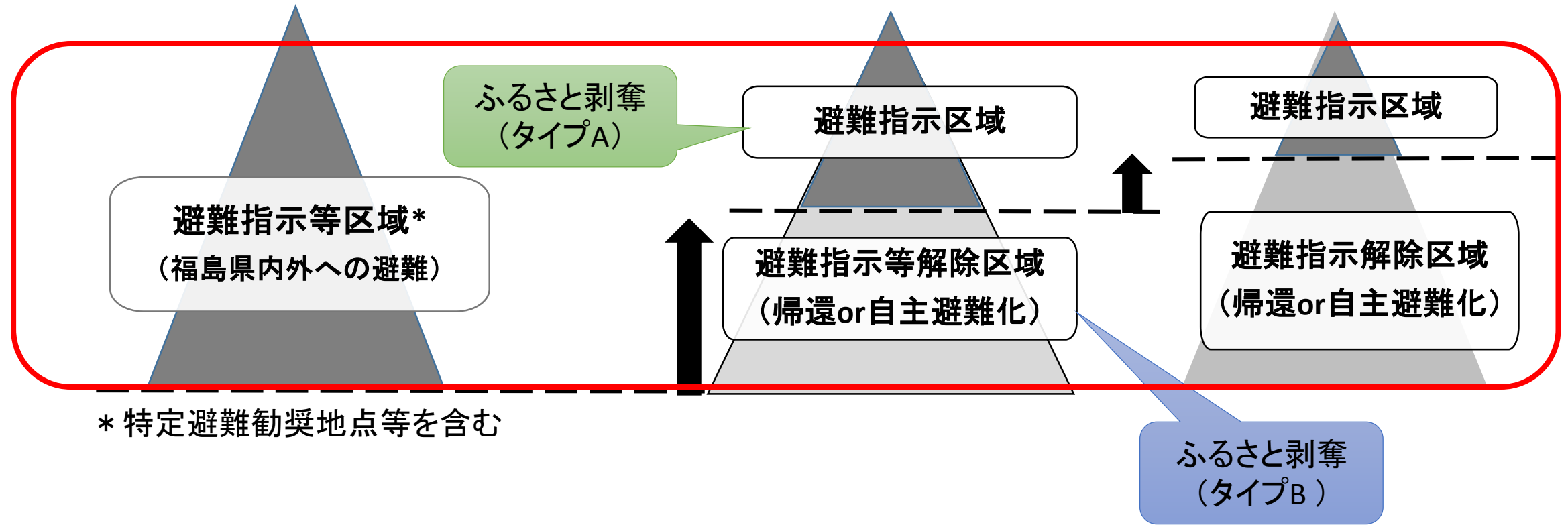
③ふるさと剥奪論の射程:時空間の共同性～土地に根ざして生きる「場所」

～ライフ(生命、生活、その連続である人生)を育む「場所」

～生業の複合、家をつないでいくというこの列島の人々の暮らし方

→一般に言われる「復興」とは異なる

時間 (t)



★故郷喪失・故郷変容を、ともに「ふるさと剥奪」として論じる。

故郷喪失⇒ふるさとが現に剥奪されている状況 (避難指示継続:タイプA)

故郷変容⇒ふるさと剥奪状況の継続 (避難指示解除後:タイプB)

* 類似の地域の被害はタイプAとBのバリエーションとグラデーションで示しうる

タイプA(浪江町津島地区)
タイプB(川俣町山木屋)

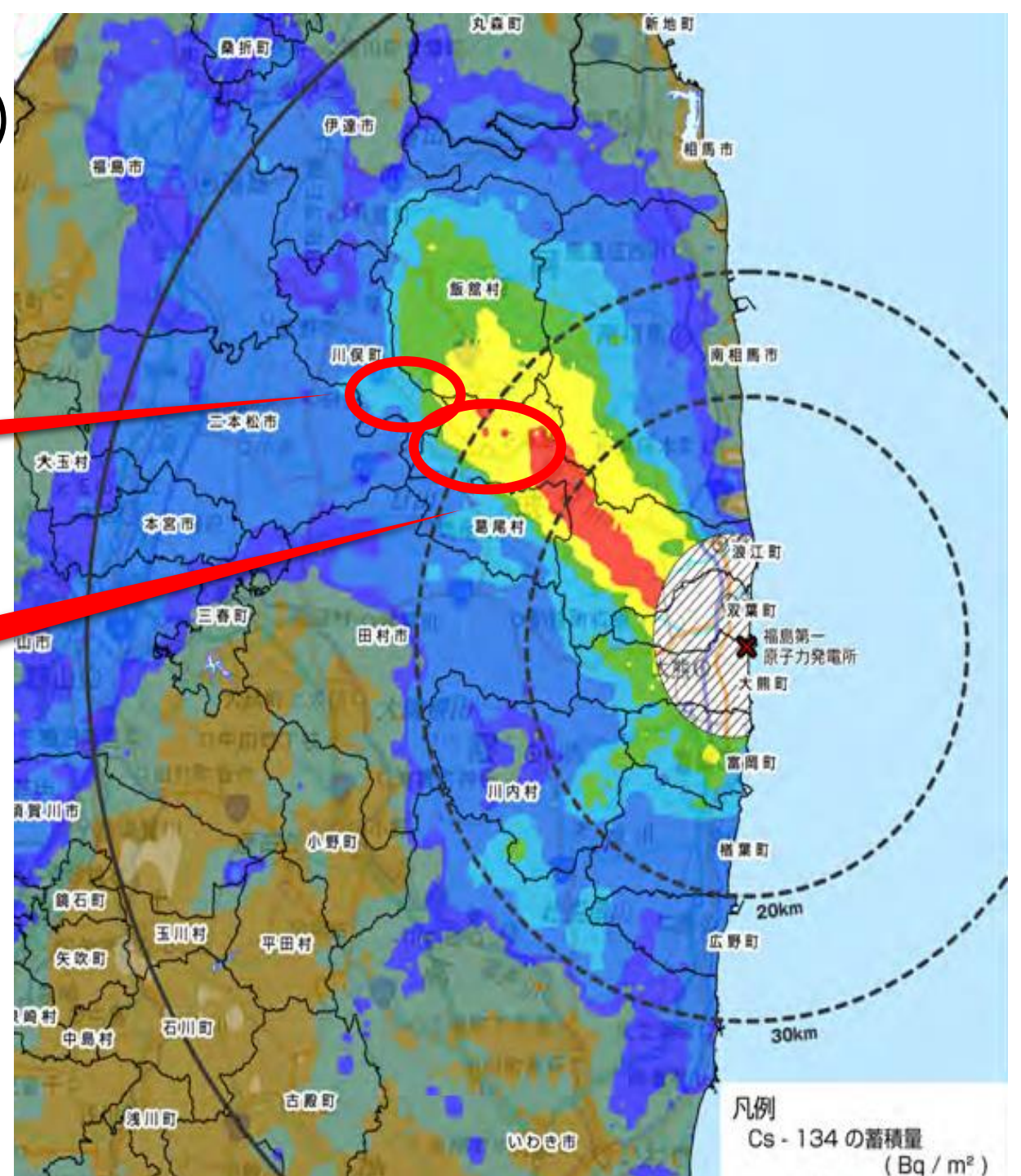
山木屋

161/285世帯、343/729人(2020年11月)

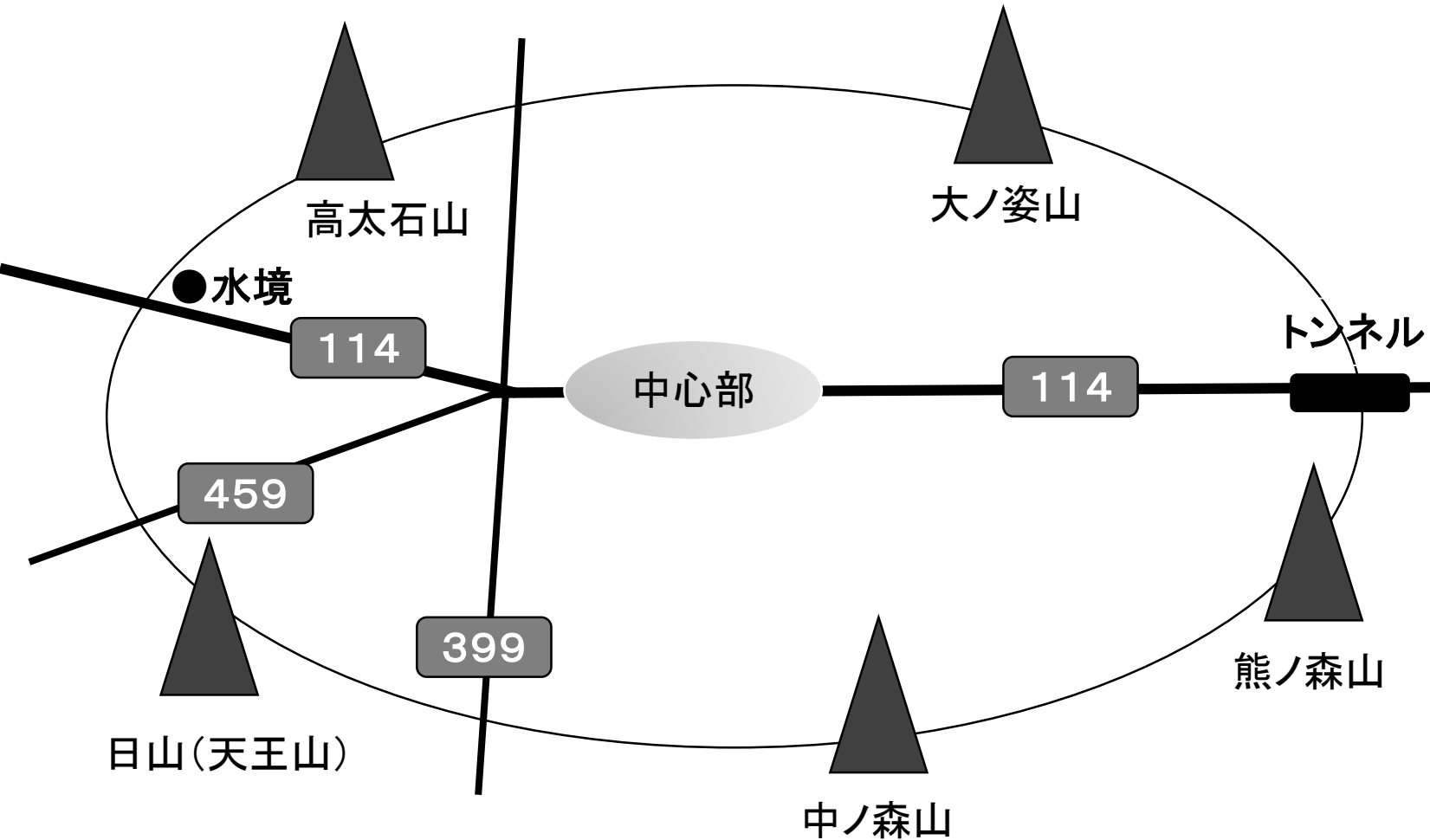
津島

451世帯1,459人(2011年3月)

file:///C:/Users/owner1/Downloads
/1940_0830_1%20(1).pdf



ふるさとと剥奪のプロトタイプA: 津島 (合併前は津島村)



中山間地域

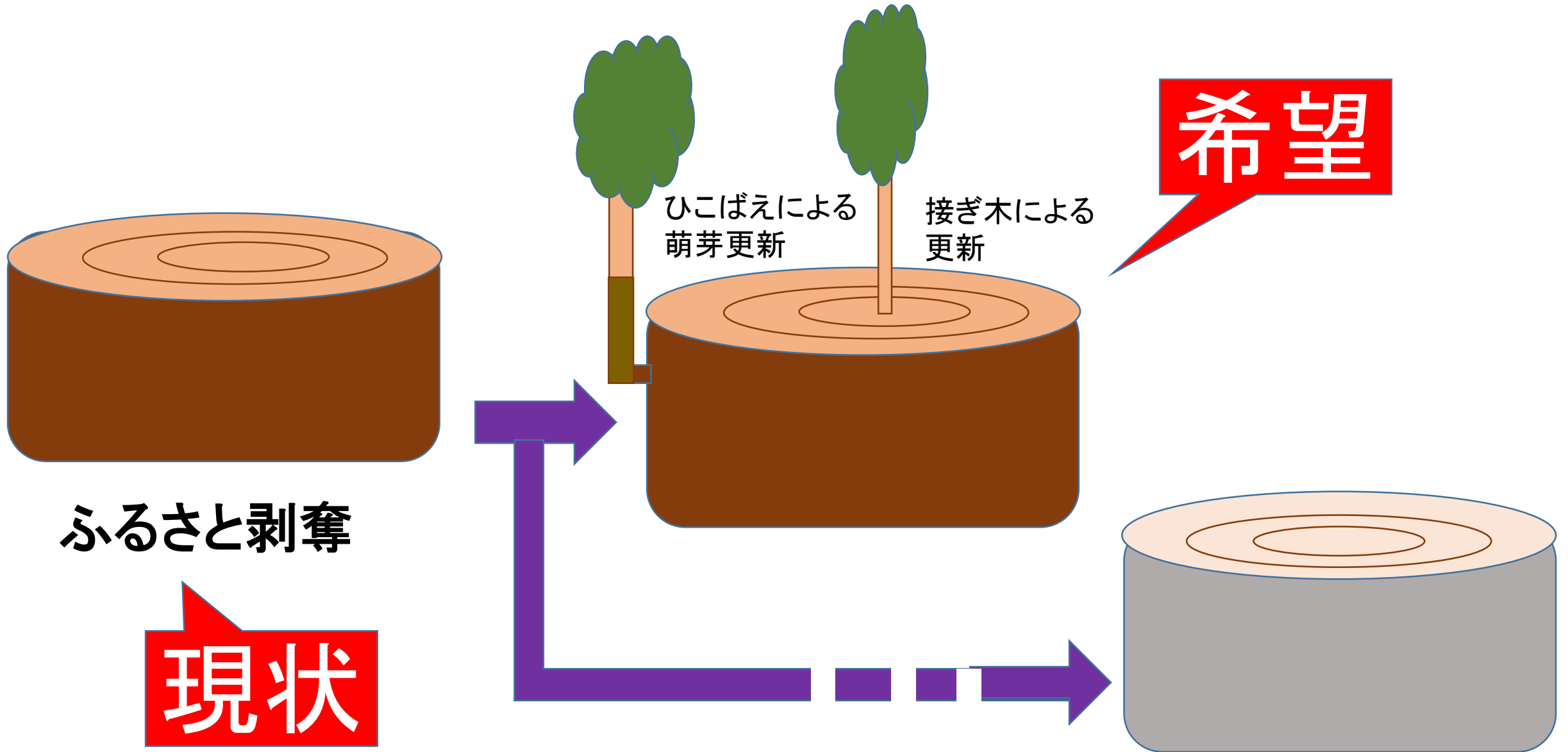
津島マツ、良質の石材、
キノコ・山菜・狩猟、溪流釣り、
タケノコ、ニホンミツバチ、田畑

密な人間関係、「結い」の精神
(セイフティ・ネット)

田植踊り(県無形重要民俗文
化財)

DUSH村(TVロケ地)

剥奪された「ふるさと」を取り戻す（「ふるさと」のエートをつなぐ）



続く被害とつなぎたいエートス

私は体調を悪くして仕事もできずに生活を安定することができません。精神的におかしくなり、家庭はもめやすくなりました。働くのにも何もできず、精神科病院に通院しています。賠償金もなく、今は生活保護を受けています。母は病気で入院したり退院をくりかえしています。弟もお金がなくて、たくさんのお金を借金で苦しんでいます。家族がバラバラになり、自分自身がこれからどのような生活をしていけばいいのか？わかりません。生きる気力もないですし、自分のやりたいこともすべて水のように流れて行く毎日なんです。賠償に対して色々やりましたが、よくわからずでした。地元の方との話もなく、これから**土地やお墓を守るにも**どのようにしていくのかも不安なんです。一度で良いので詳しい話とかも聞いたり、説明を受けて見たいと思いますが、人と関わりが苦手になり、ますます地元の方との交流もなくなりました。**地元の方に会える機会もなく**、まったく交流がなくなり、よくわかりませんが、**住民の基盤**がとれるようになってもらいたいです。（事故当時20代）

ふるさと剥奪のプロトタイプB:山木屋 (合併前は山小屋村)

避難指示解除後も続く故郷剥奪

1. 避難前後の生活の落差

帰還した人でさえ「ふるさと」がないと言う

2. 避難指示が解除されても故郷剥奪は継続

かかわり・つながり・持続性が取り戻せない

⇒避難と「ふるさと剥奪」被害を別個に捉えないと、「ふるさと剥奪」被害の重大性が見えなくなる(「復興」という言葉で覆い隠される)

(帰還率が復興の度合いを示す指標ならば)

山木屋は復興の優等生！

	解除時期	対象者(人)	居住者(人)	帰還率(%)
田村市 都路地区東部	2014年6月	287	230	80.1
川内村東部	14年10月 16年6月	298	85	28.5
檜葉町	15年9月	7,140	2,270	31.8
葛尾村	16年6月	1,328	256	19.3
南相馬市 小高区など	16年7月	9,286	2,887	31.1
浪江町	17年3月	14,909	490	3.3
飯舘村	17年3月	5,612	607	10.8
川俣町 山木屋地区	17年3月	946	285	30.1
富岡町	17年4月	9,396	429	4.6
全 体		49,202	7,539	15.3

注:2018年1月31日または2月1日時点の帰還率である。 出典:河北新報、2018年3月4日

実際の復興実感とのズレ

いま、あなたは山木屋の復興を実感できていますか。			
	実感している	3	(6%)
	実感できない	33	(67%)
	どちらともいえない	13	(27%)
			N=49

高齢化率6割の限界集落

- 戻った・戻らないで対立し、戻った人も余裕ある・余裕ないで対立した。そんなんだから、**戻った人にもここが「ふるさと」にならない。**
- 線量は（山木屋の中で）比較的低いほうですが、人間関係なんだろうか。この部落でも戻ってこない人がいて、まるくいつているような状況ではないです。
- 人との交流ないし、人も変わってしまったようだ。個人プレーだね。人との会話がなくなったし、うちだけじゃなく、ほとんどの家が夫婦 2人暮らし。近所で行ったり来たりなんてないですよ。来ないし行かない。
- **原発に全部壊された。家庭崩壊したし、部落崩壊もした。**部落で花見をしたり、秋は芋煮会をしていたのに、今は何もなくなっちゃった。2, 3人でやったって、面白くないからね。
- 戻ったって、隣近所とうまくいかないし、やることはないし、こんなんだったら便利のいいところにいた方が良かったと思っている人もいるんだから

- やっぱり、ひとつには**故郷をなくされてしまった**というのが現実なんです。最初に 言ったように**共有財産の管理もできない**。あるいは、昔のひとつの**長年の文化も守れなくな**ってきている。そういうこと一つひとつを考えれば、やっぱり故郷を戻してもらわないと。
- やることがない。避難解除になってうちに戻ったけど、国は「うちに戻ったからいいんじゃないの」って言うけど、そういう問題でもない。**戻れば元の生活になると思うけど、元の生活に絶対なんないでしょ。** やることがないからいいんじゃないのと言うんだけど、やることがないのが一番辛い。今まで通り作物をつくって仕事の喜びがあればいいんだけど、それもない。うちの生活は毎日ただ流れていくだけで何のやい甲斐もない。ただ老いていくのを待つだけ。マイナス思考の話。

- まだ、復興をどうするかは考えられないですよ。みんなが生きていくためにどうするか、考えなくてはなりません。まず、道路や土手の草刈りをどうするか。町の中と違って、ここは土手の多いところだから、そこが大変なんです。復興というのは、まずは生きていくこと。復興はおのずとついてくる。
- 山木屋の将来像とか、考える余裕はなくなりました。
- 結局、山木屋の土地は、国は大丈夫だといっているが死んだも同然なんだ。
- うちの部落も俺らで終わりだ。若い人は戻らないと言っている
- テレビ見ても、復興はパフォーマンスという感じ。うわべだけというのが現状です。何にせよ、ガラス張りでやってほしいです。

人と自然
との
かかわり

風土の自然

- マイナー・サブシステムの困難
- 循環型生業の困難

人と人
との
つながり

“結い”の精神 (=共同/協同/協働)

- 民俗行事の変容(津島≡山木屋)
- 葬儀の変化

持続性
永続性

先祖から子孫へ

持続可能な生業・生活の困難

人間関係と人間関係を基盤とした自治の困難

- 組・行政区の困難

①かかわり（人と自然とのかかわり）

- マイナー・サブシステムの困難
キノコ・山菜・ニホンミツバチ
- マイナー・サブシステムの変化
狩猟
- 風土に適した生業の困難

様式-2 (地区公民館用)

一般食品スクリーニング検査 (非破壊式) 結果記録票 (申込者用)

1. 検査日時: 平成 30 年 2 月 22 日

2. 受付番号: 97 申込者氏名: 様

3. 検査した自治体名 (場所): 川俣町 (山木屋地区復興拠点商業施設)

4. 検査した食品等の名称: イノシシ

5. 検査結果 (但し、試料不足の場合は参考程度)

(水境)

判定: 基準値超過

セシウム137: 13687.2 Bq/kg

試料: 500g~2kg

セシウム134: 1630.8 Bq/kg

15.318 /

【留意事項】

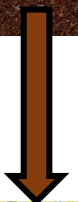
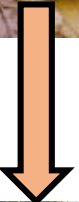
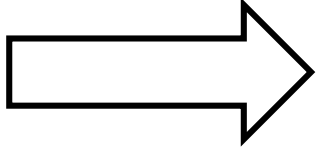
- 使用した非破壊式放射能測定器はアドフューテック社製「AFT-NDA: そのままはかるNDA2: NaI(Tl)シンチレータ」となります。
 - この検査結果記録票は流通目的の証明には使用出来ません。
 - 基準値超過のおそれが有る場合は、確定検査をお勧めします。
 - 「検出せず」とは測定結果が機器の検出下限値 (セシウム134と137合計で25Bq/kg以下: 核種ごとの下限値は10Bq/kg※程度) を下回り、測定物に放射能があると判断できない (数値として示せない) ものです。
- ※この値より低い測定値 (推定値) が出たとしても不確かさや天然の放射能の影響を多分に含んだ数値ですので、参考程度になります。

下に該当する物を販売または不特定多数に授与しないようご注意ください。

- 基準値を超過若しくはそのおそれがある物
- 出荷制限等の指示がある物
- 国、県が検査を実施して出荷可否の判断をする物のうち、その判断がなされていない物

①かかわり（人と自然とのかかわり）

- マイナー・サブシステムの困難
キノコ・山菜・ニホンミツバチ
- マイナー・サブシステムの変化
狩猟
- 風土に適した生業の困難



堆肥

②つながり(人と人をつながり)

- 生業のつながりが切れる～共通の話題がない
- やることがない(生業再開困難のため)
(田畑ができない～社交場としての田畑
家のなかに引きこもる)
- 用がないので行き来しない(回覧板も回せない)

六本木ヒルズ盆踊り 2019

Roppongi Hills Bon Odori

OPEN 15:00~21:00 ※六本木けやき坂通りは20:30まで

六本木ヒルズリーナ

16:30~/18:30~ **日本の芸能**

福島県川俣町

山木屋八坂神社三匹獅子舞

17:00~20:00

盆踊り

六本木けやき坂通り

15:00~19:30

キッズワークショップ

いどうしきこどもきち

15:00~20:30 (20:15ラストオーダー)

けやき坂グルメストリート

お葬式

- 組が単位
- 組の人が葬儀委員長（隣の家）
- 役割分担
- 150～300人が参列
- 家から出棺
- みんなで見送り
⇒ 家族葬の出現（一線を切る）

③持続性・永続性

- 学校の休校
- 「山木屋の子ども」がいない

- 若い世代が戻らない
- 家や家業を継ぐ長男家族が戻らない

- 「俺の代で終わり」

山木屋の幼稚園・小中学生の人数の推移

	幼稚園			小学校							中学校				合計
	4歳	5歳	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
2010(平成22)年度	6	6	12	10	10	8	17	15	10	70	6	11	12	29	111
2011(平成23)年度	5	5	10	6	10	10	8	16	15	65	10	4	10	24	99
2012(平成24)年度		5	5	6	5	10	10	8	16	55	13	9	4	26	86
2013(平成25)年度	休園			5	6	5	10	10	8	44	14	13	9	36	80
2014(平成26)年度	休園				6	6	6	10	11	39	6	14	12	32	71
2015(平成27)年度	休園					6	6	6	10	28	10	6	14	30	58
2016(平成28)年度	休園						6	5	6	17	7	10	6	23	40
2017(平成29)年度	休園							5	5	10	3	7	10	20	30
2018(平成30)年度	休園								5	5		3	7	10	15
2019(平成31)年度	休園					休校							3	3	3

組・区の困難

- 組とは？～同族団的な性格も
（同じ姓の家が集まっている）
- ほとんど戻らない組、組を抜ける人も。
- 区とは？～生活密着型の自治組織
- 区長の引き受け手が無い（戻らない人はできない）
- 共同作業をどうするか、区の財産をどうするか

帰還者全世帯へのアンケート

Q8 原発事故前と現在とで、何が変わったと思いますか。			
(1) 山木屋の風景が変わった。			
	そう思う	37	(82%)
	思わない	8	(18%)
	わからない	0	(0%)
			N=45
(2) 山木屋の人との付き合い方が変わった。			
	そう思う	44	(90%)
	思わない	4	(8%)
	わからない	1	(2%)
			N=49
(3) 自分や家族が変わった。			
	そう思う	26	(60%)
	思わない	16	(37%)
	わからない	1	(2%)
			N=43

Q10 これから5年後の山木屋は、どのようになっていると思いますか。			
(1) 現在より人口が増えている。			
	そう思う	1	(2%)
	思わない	43	(93%)
	わからない	2	(4%)
			N=46
(2) 復興事業の成果が出たことを実感できている。			
	そう思う	1	(2%)
	思わない	41	(89%)
	わからない	4	(9%)
			N=46
(3) 現在、行われている祭や行事が続けられている。			
	そう思う	6	(13%)
	思わない	30	(65%)
	わからない	10	(22%)
			N=46
(4) 新しくよそから入ってきた人が、地域づくりに励んでいる。			
	そう思う	2	(4%)
	思わない	28	(62%)
	わからない	15	(33%)
			N=45

復興発電事業（メガソーラー事業）	7億円
復興拠点商業施設（とんやの郷）	7億5千万円
幼稚園、小中学校改築費（校舎、プールなど）	13億5千万円
粗飼料生産支援事業（牛の餌生産の機械、施設）	22億円
花卉生産施設整備事業（アンズリウム栽培ハウス）	8億5千万円
井戸掘削事業（帰還のための井戸掘り 240戸）	8億4千万円
水田用排水路整備事業（水田の用水路整備）	34億7千万円
農業基盤整備事業（農道など舗装整備）	7億1千万円
町道路整備舗装事業（未舗装道の整備）	11億3千万円
災害公営住宅整備事業（40戸新築）	7億円
木戸道舗装整備事業（帰還者の木戸道舗装）	2億1千万円
家屋解体事業（震災被害家屋解体＝1,100棟）	20億円
合計金額	149億1千万円

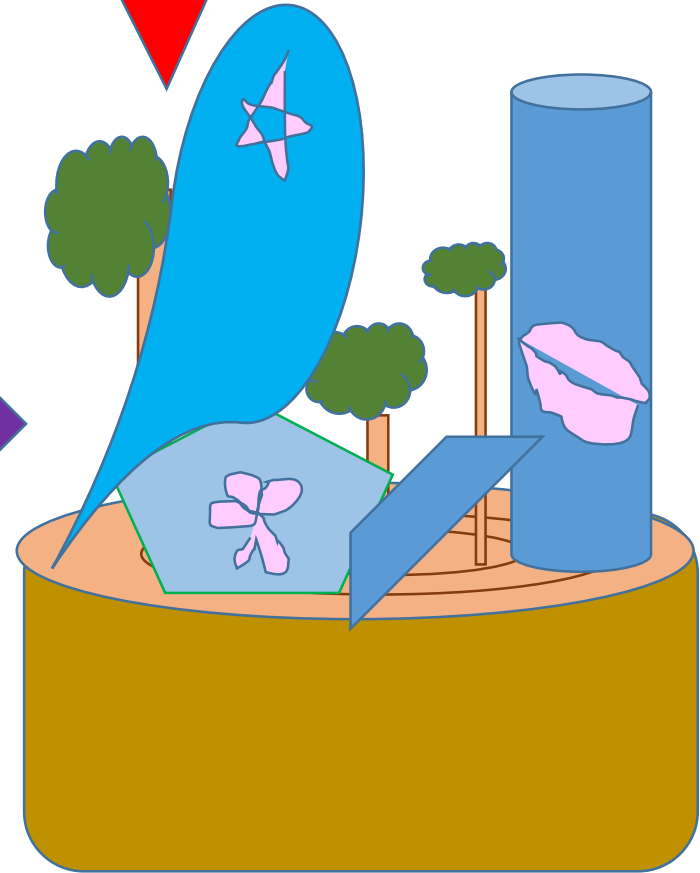
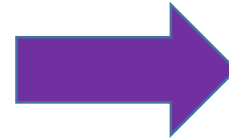
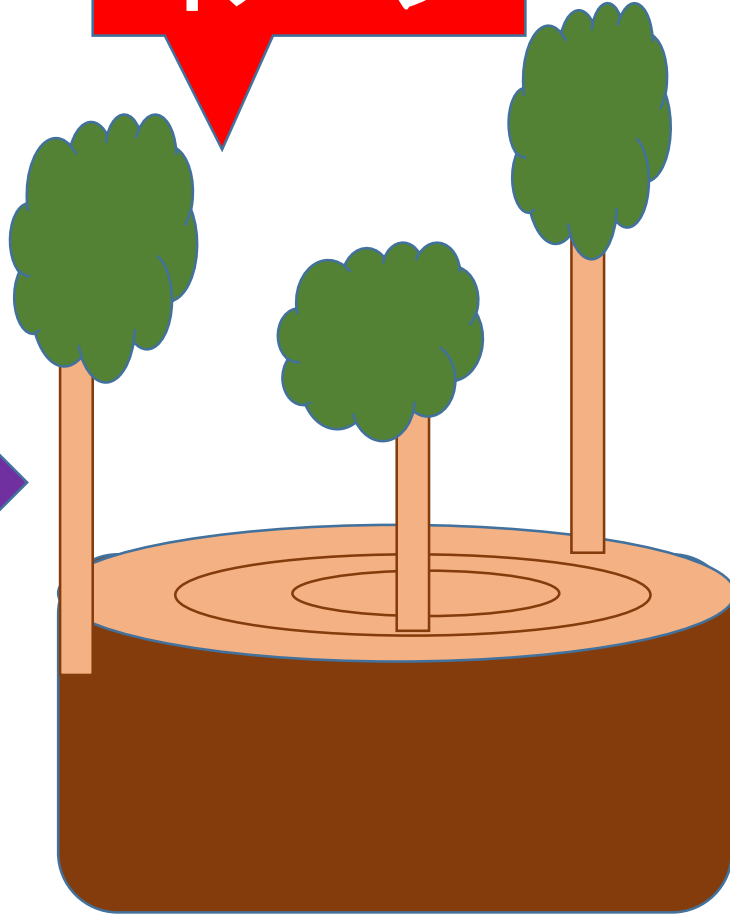
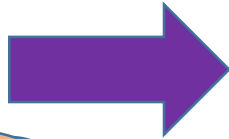
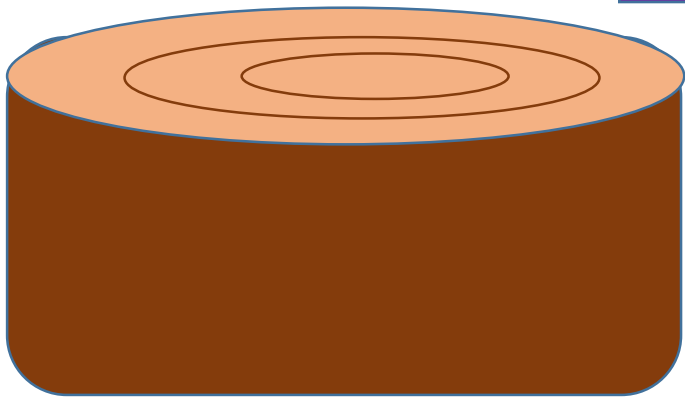
花卉生産施設整備事業 (アンズリウム栽培ハウス)

支出		収入	
苗代	553,352	大田花卉	128,170
発電機	415,800	とんやの郷	157,800
肥料他	122,015	合計	285,970
作業場	808,700		
集荷場	346,500		
アネコン	65,880 + 22,680		
アイイス	8,100		
小計	2,342,127		
灯油	1,213,651		
電気代	132,386		
合計	3,688,164		
		$3,688,164 - 285,970 = \triangle 3,402,194$	
			2019年8月までの収支

ふるさと剥奪論

復興の
イメージ

現実の
「復興」



プロトタイプ:皆伐

帰還後の「復興」:
接ぎ木、ひこばえ更新

ショック・ドクトリン

まとめ

- 1: 避難前後の生活はつながらない
 - ⇒ 地元＝「ふるさと(かかわり、つながり、持続性)」の剥奪
 - ⇒ 土地に根ざして生きる権利の剥奪
- 2: 「避難」が終わっても「ふるさと」は元に戻らない
 - : 絶対的な損失と新たな収奪
 - ⇒ 避難を終えても「ふるさと剥奪」被害は残る。
 - ⇒ 避難指示解除後も「ふるさと」は奪われ続けている
- 3: 「ふるさと剥奪」は不可逆な被害である
 - ⇒ 「避難」では終わらない被害＝「ふるさと剥奪」被害

求められていること

- 学校を福島に転校した時に、はじめての転校だったから、クラスにはじめて入った時にひとりぼっちのような気持ちになり、次の日から行きたくなくなかった。朝、行きたくなくて泣いていたら、お母さんが先生と話をし、クラスのみんなに先生が話をしてくれました。クラスのみんなからお手紙をもらった。とてもうれしくて、次の日から少しずつ行けるようになった。（事故当時10代）
- ド田舎でもいいので、少しでも誰かが安心して暮らせるような、もとの津島に近い環境に戻してほしい。それが何十年後でもいいので、私が50代になった時等に、ふるさと津島を思い出して戻っていることが嬉しい。楽しみにしたい。ご協力よろしくお願ひします。（事故当時20代）

文献

- 秋道智彌,2011,『生態史から読み解く環・境・学——なわばりとつながりの知』昭和堂
- 関礼子,2016,「原発事故避難と故郷の行方」橋本裕之・林勲男編『災害文化の継承と創造』臨川書店。
- 関礼子,2019,「土地に根ざして生きる権利——津島原発訴訟と『ふるさと喪失／剝奪』被害——」『環境と公害』48(3): 45-50。
- 高橋勇悦,1974,『都市化の社会心理——日本人の故郷喪失』川島書店
- P.L.バーガー—他、高山真知子他訳,1977,『故郷喪失者たち——近代化と日常意識』新曜社。
- P.ボス、南山浩二訳,2005,『「さよなら」のない別れ、別れのない「さよなら」——あいまいな喪失』学文社。